世界銀行によるプロジェクト

インド”Technical Support for Advanced Rainfall Monitoring / Prediction with Satellites and Reservoir Inflow Prediction for Optimized Reservoir Operation”(最適化された貯水池操作のための衛星を用いた高度な降雨監視/予測および貯水池流入予測のための技術的支援)

インドのケララ州では 2018 年及び 2019 年に連続して洪水が発生しました。世界銀行と現地州政府から要請を受け、ICHARM は独立行政法人 水資源機構と共に、利水ダムの最適操作による洪水対応の可能性を示す業務を 2022 年 1 月 7 日～2023 年 3 月 31 日の契約期間で受託しました。

本プロジェクトでは水資源機構と協力し以下の業務を実施しました。

1) ダム貯水池の運用最適化のための高度な降雨監視および降雨／貯水池流入予測システムの概観
2) 日本および／または他国の事例紹介、ならびに衛星降雨監視と予測の試験的デモンストレーション（可能であればケララ州で、そうでなければ他の場所で）
3) 必要な情報／データ、スケジュール、推定費用を含む、ケララ地域向け統合システムを開発するための推奨プログラムに関する指導

2023 年 1 月 23 日、25 日には世界銀行の主催により、現地州政府の関係者や世界銀行の関係者等が参加するワークショップがケララ州で開催され、ICHARM 小池俊雄センター長はじめ研究員と水資源機構職員が参加しました。ICHARM からは日本の技術の紹介、ならびに ICHARM の技術による 2018 年及び 2019 年のケララ州における洪水にかかる解析結果の紹介を行いました。また、ICHARM からは、次のステップとしては、関係者で協力を行う、5 つの ”Co”、 Co-integration、Co-analyzing、Co-learning、Co-designation、Co-development を提案しました。





写真 1，2 表を行う小池センター長、ワークショップの参加